vinetur

オクシタニーのワイン生産者、ボトル当たり10〜15ユーロセントの値上げを要求

エネルギー費と人件費の上昇で多くのブドウ畑が採算割れに。2026年の収穫量は平年並みだったと生産者は訴える

2026年11月18日（水）



フランスのオクシタニー地域圏のワイン生産者は、ここ数年の苦境を経て、現在の市場価格ではワインの生産コストを賄えなくなったとして、ボトル当たり10〜15ユーロセントの即時値上げを求めている。この要求は11月16日（月）、生産者とワインの販売を手がける企業との会合で協議された。生産者は、多くの事業を採算の取れる状態に保つために必要だとする取引条件の確保を目指した。

値上げ要求を主導する一人、オクシタニー協同組合ワイン生産者部門の会長Fabien Castelbouは、生産者の経費が急増する一方、ワインの提示価格は依然として低すぎると述べた。France 3 Régionsによると、生産者は2026年の収穫量が平年並みに戻ったと話すが、それでも農場の経営収支を改善する価格には結びついていない。

Castelbouは、エネルギー費や人件費、その他の投入費用が上昇し、生産コストと販売価格の差を埋めるのが一段と難しくなっていると述べた。生産者は、ボトル当たりの小幅な値上げによって、失われた利益の一部を取り戻せると主張する。値上げがなければ、収穫量が平年並みに戻るだけでは、業界全体が抱える根深い採算問題は解消されないというのが生産者側の見方だ。

11月16日（月）の会合では、前年に導入された持続可能性に関する協定も議題となった。Castelbouによると、生産者は環境基準の順守やブドウ畑での栽培方法の長期的な変更を求められているが、そうした取り組みに見合う対価は支払われていない。同氏は、ワイン生産の基本的な採算が成り立たないまま、持続可能性への取り組みをさらに求めるのは筋が通らないと主張した。

生産者は、目先の値上げに加え、ワインの販売方法や価格設定の仕組みの見直しも提案した。Castelbouによると、生産者は複数年にわたる業界団体間の契約を拡大し、供給管理の改善などを通じて業界の経済的な運営体制を強化したい考えだ。将来の収入を見通しやすくし、変動の激しい市場で短期交渉がもたらす圧力を軽減することを目指している。

この対立は、大規模なワイン産地におけるサプライチェーン全体の利益配分を問うものであり、農場の経営にとどまらない影響を持つ。生産者がより有利な価格を確保できなければ、投資や生産量、ワイン供給の長期的な安定に影響が及ぶ可能性があり、ボトル価格や飲料市場全体の事業環境にも波及しかねない。この問題は、小売価格が抑えられるなかで環境規制への対応費用を賄おうとする欧州の酒類生産者が直面する、より広範な課題も反映している。

Castelbouは、問題は社会にも及ぶと述べた。採算の悪化はもはやブドウ畑の経営だけの問題ではなく、ブドウ栽培に依存する雇用や農村地域社会を脅かしていると警告した。同氏によると、地域の一部ではブドウ畑の活動縮小がすでに広範な打撃をもたらしており、生産の縮小に伴って雇用が失われている。

同氏はまた、ブドウ畑の衰退が景観の環境リスクにもつながると指摘した。ブドウの木が姿を消し、使われない土地が増えるにつれて、耕作放棄地が広がり、火災の危険性が高まるという。ブドウ畑は防火帯として機能し、農村地帯で消防隊の活動拠点にもなり得るとし、業界の弱体化は農業所得以外にも影響を及ぼしかねないと主張した。

生産者は現在、11月16日（月）に示した提案に対する仲買業者や販売業者の回答を待っている。Castelbouによると、生産者は11月末までに返答を得たい考えだ。交渉が決裂すれば、事業を続けられなくなる生産者が出る可能性があり、新たなデモにつながることもあると警告した。現時点で生産者は合意に至る可能性をなお信じているが、具体的な値上げ案を速やかに示すよう求めている。